

交通安全 シグナルめーる

平成 23 年 6 月
第 23 - 3 号
高岡市立戸出東部小学校
富山県警察本部交通企画課

地域ぐるみ・家族で子どもを守りましょう

楽しそうに笑いながら話をしている子どもたちや、
友達みんなではしゃいでいる子どもたちを見ると何だかうれしくなりませんか？
子どもたちは家族の宝であり、地域全体にとっても守らなければならない存在です。
家族はもちろんのこと、地域ぐるみで子どもの安全を守ってあげましょう。

子供を保護する義務

- 子どもを保護する責任がある者は、交通頻繁な道路や踏切付近で子どもを遊ばせたり一人歩きをさせてはいけません。道路交通法第 14 条で定められています。
- ☆ 保護する責任がある者とは、子どもの両親だけでなく、20 歳以上の兄姉や先生・保母なども含まれます。
- ◇ その他の成人も、通学中の子どもたちのために誘導や合図などが必要な場合には、子どもたちが安全に道路を通行できるように誘導・合図をしてあげるよう努めなければならないことも定められています。

子どもが交通安全について正しく理解するために、家族が良いお手本になりましょう。
家族の間で交通安全に関する意見や行動が食い違っていると子どもは混乱してしまいます。
家族のみなさんで話し合いの機会を作り、交通安全に関する共通の認識を持ち、それを子どもたちに教えてあげましょう。
大人自身が正しい行動をとってはじめて子どもたちの安全な行動が習慣化されるのです。



気分によって行動が変わる！

子どもは、何かうれしいことがあると気持ちがウキウキして落ち着きがなくなり、反対に叱られた時にはその事で頭がいっぱいになり、周りを見ずに歩いたりします。
スポーツや遊びすぎで疲れている時にも周りのことに注意しなくなります。

抽象的な言葉だけでは理解できない！

「危ないよ」「注意しなさいよ」といった抽象的な言葉だけでは、子どもは具体的な行動と結びつけて理解することはできません。
また、交通事故の危険性について教えられ「うん」と返事はしても、そのとおりに行動できないことが多いものです。

子どももつて！

大人の真似をする！

信号無視をして道路を横断する大人や、ガードレールの外側の車道を歩いている大人を見ると、たとえそれが危険な行為であっても子どもはすぐに真似をします。
子どもは、大人とは違って周囲の状況について判断する能力がありませんので大変危険です。

何かに夢中になると周りが見えない！

道路で友達との遊びに夢中になっていると、車が近付いてきても気がつきません。
また、遊んでる途中にボールが道路に転がり出た時や、道路の反対側から家族に声をかけられた時などには、道路を走る車に注意せずに走り出したりします。

よく見てください

- 交通事故の 70%以上が「安全不確認」が原因で起きています。
- ほんの少しの油断が交通事故に繋がります。
- 安全確認は 1 回だけで安心せず、2 回、3 回と行いましょう。

人は予測しているものはよく観察できますが、予測していないものは意外ほど観察しません。見落としがあるのでは？と気をつけましょう。

ん？錯覚？



左は盛り上がり、右はへこんです。ね。

じゃあ、逆さにすると？



向かい合う女の人の顔に見えたり、盃に見えたりしますね。真ん中の部分は左右同じ色なんですけど、右が暗く見えませんか？